



外国出張報告書

平成 26 年 11 月 7 日

1. 出張国名 タイ、ラオス、マレーシア
2. 出張月 平成 26 年 4 月～11 月
3. 出張目的
 1. 森林の炭素蓄積能力及び林産物収穫許容量の評価に係る現地調査作業：C
 2. 林産物の持続的生産のための休閑林の管理手法の開発：C

4. 成果の概要

持続的林業プロでは、タイ国内のチーク人工林 7 箇所において現存量の調査を行った。全ての調査地において、 D^2H ([胸高直径] \times [胸高直径] \times [樹高])と各器官の現存量との間に強い相関関係が確認され、近似式を求めることができた。また、幹の胸高直径についても各器官の現存量との間に強い相関関係が確認され、近似式を求めることができた。

インドシナ農山村プロでは、*Cratoxylum conchinchinensis* (現地名：マイ・テュー) を異なる光環境下に植栽し、苗の成長と光環境の関係を調べた。

その結果、植栽 1 年 2 ヶ月後までの成長をみると、*Cratoxylum conchinchinensis* はより明るい光環境のほうが高い生存率、成長を示した。

Negri Sembilam 州の Pasir Panjang 森林保護区でおこなったサラノキ属樹種の雑種個体の調査では更に *Shorea leprosula* と *Shorea curtisii* の間の雑種を確認することができた。

Selangor 州の、Ulu Yam 森林保護区の調査では雑種個体の確認はできなかった。